洛西竹林公園石仏調査レポート

丸川　義広

１．はじめに

昭和56年（1981）６月に開園した洛西竹林公園の東端の一角には、地下鉄烏丸線建設に伴う調査で出土した石仏・石造物（合わせて「石造物群」）が展示されている。織田信長が将軍足利義昭のために築城した旧二条城跡の堀・石垣から出土したものとして著名であるが、石仏の特徴や各々の出土地点についての十分な情報が提供されておらず、貴重な資料が十分に生かされていないのが実状であった。筆者も以前から同様の感想をもっており、機会があれば石仏が設置された状況と個々の石仏の型式ならびに出土地点を詳細に調べたいと考えていた。

2016年１月、突然の病を得てしばしの休職を余儀なくされた。入院・加療によって病状は改善し、自宅から通院可能となったが、そうなると時間を持て余し、自宅に比較的近い竹林公園を散歩コースとして歩き始めた。すると当初の欲求が沸いてきた。そこで現地に日参し、個々の観察に務めた。筆者にとっては、病を得たことは不幸であったが、加療中に多大な時間を与えられたことは、ある意味幸運でもあった。以下、調査によって判明した内容を報告する。

２．石仏・石造物の出土状態

竹林公園に展示された石仏は、1974～1979年度にかけて実施された地下鉄烏丸線の調査時に旧二条城跡の堀（報告書では「濠」と表記）の埋土、ならびに石垣に使用されたものである。報告書(『京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査年報』。以下「年報○[1]」）をもとに、出土位置と内容を確認する。

『年報Ⅰ』では椹木町通の延長部に設定した「№.15」「№.24」「№.25」で堀・石垣を検出し、図版34に５基（石仏３、石造物２）が掲載されている。『年報Ⅱ』では出水通延長部の「X-2」「№.44」「№.52」、下立売通延長部の「X-1」、椹木町通延長部の「№.53」「№.54」で堀・石垣を検出し、図版49・50に石仏17基、図版51に石造物９基が掲載されている。『年報Ⅲ』では椹木町通延長部の「X-6」、丸太町通延長部の北側の「X-7」で堀・石垣を検出し、図版73に石仏６基、石造物１、図版74に石造物９基が掲載されている。いずれも実測図は掲載されていない。

石造物の出土位置と個数については、『年報Ⅲ』P284の表-38で整理されている。この表によると、出水通延長部から出土した石仏は43基、下立売通では26基。椹木町通では62基、丸太町通上るでは28基で合計159基となるが、これでは竹林公園に展示された石仏214基には足りない。しかしこの表では、「中立売～上長者町　溝」からも石仏58基が出土しており、両者を足すと217基となって竹林公園の実数に近い[2]。また『報告書Ⅲ』では阿弥陀如来が132基と最多であること、供養塔の年号から室町時代の15世紀中葉を中心とすることが推定されている。

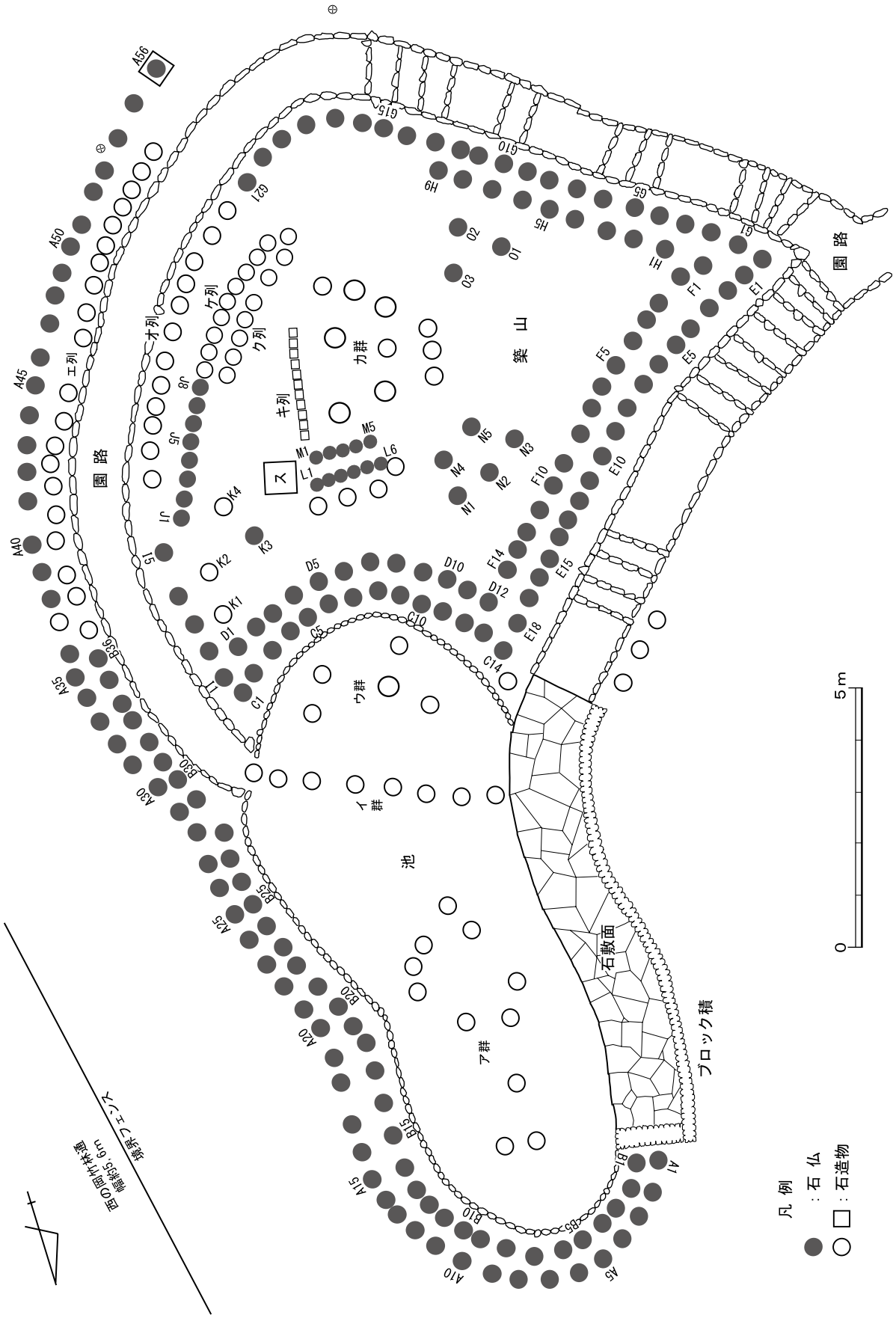

図１　竹林公園展示石仏・石造物配置図

３．竹林公園に展示された石仏（図１・表１）

作業方法　全体の配置を把握するため概略図を作成した。次いで、列（群）を任意に設定し、石仏に個々名称を与えた。こうした作業を経ると、石仏・石造物は無造作に置かれたものではなく、類似するものを選別して置かれたことも理解された。個々の石仏はデジタルカメラで撮影し、データベース化し、要点をもとに表１を作成した。図１は京都市文化財保護課が保管する資料（以下「資料」）のうちの平面図を丸川が調整したものである。

個数・配置・区分　石造物群は竹林公園の南東隅の一角で、「西の岡竹林通」と名付けられた道路の西側に展示されている。展示区域をおおまかにみると、「池」に見立てた低い側と、「築山」が築かれた高い側に区分できる。そして導入路の園路を西から東に進むと園路は二股に分かれ、左に進むと池を横切るかたちで南に折れて築山の東裾から南裾を周回して元の二股の分岐点に戻る。石仏と石造物は園路に沿って配置されているが、手前には金属柵があり石造物群に直接触れることはできない。このため園路から離れた場所に置かれた個体は、間近で観察することはできない。

石仏（図１の●）はＡ列からＯ群までの15列（群を含む）に配置され、総数218基ある。この中には、石仏でない個体が４基含まれるため、石仏の総数は214基である。石造物（図１の○・□）はア群～スまで13列（群）に配置され、総数128基ある。両方の合計は346基である。今回は石仏のみを検討対象とする。

出土地点の検討　資料には、個々の石造物の出土地点（調査区）が記載されている。表１ではそれらを「出土地」として記した。旧二条城との位置関係を検討した結果、「D15～D20」「№８」「№13」「№16」は旧二条城の北城外に該当することが判明した。これらは62基あり、さらに表１で「－」とした出土地不詳の11基を加えると、73基が旧二条城外からの出土であることが判明する。つまり、展示石仏214基のうちのほぼ３分の１が城外からの出土と認識できるのである。

次に、資料ではＡ列がＡ37（礎石）より先（南）が空白となっている。このことは、後日ここに19基が追加されたことを示す。では後日設置された19基はどこにあったのか？　資料では石仏は215基とされるが、このうち、フ２（フ：資料での「石仏」の略。地蔵菩薩：「地」とする）・フ５（三尊仏）・フ６（阿弥陀三尊）・フ15（阿弥陀如来、以下「阿」とする）・フ46（阿）・フ51（阿）・フ62（二尊仏地蔵）・フ78（阿）・フ85（二尊仏立像）・フ96（阿）・フ115（二尊仏）・フ151（阿）・フ158（阿で墨書）・フ165（弥勒？）・フ167（地の立像）・フ182（阿）・フ194（阿）の17基は横線が引かれ、実際には使用されなかったことが推察される[3)]。昭和54年11月には京都市考古資料館が開館し、１階東半には石仏21基が展示された（『昭和54・55年度　京都市考古資料館年報』Ｐ16）。内訳は、阿弥陀如来９、三尊仏２、地蔵菩薩２、釈迦如来１、二尊仏３の17基（他に板碑３一石五輪塔１）で、現状とほぼ一致することから、開館時に展示されたものが後日、Ａ列後半に置かれたとみてよいだろう（玉村登志夫氏ご教示）。

当初の配置と現状に大きな変化はみられない。若干の差異を指摘すれば、Ｊ２・Ｊ３・Ｊ４は資料ではフ212・フ160・フ159でいずれも二尊仏とするが、現地は阿弥陀如来像の頭部片が置かれ

表１　石仏一覧表（現状での列・群ごと）

列数	仏の種類	観察所見	資料の番号 出土地 種類 備考	東西通名、年報○
A1	阿弥陀如来 坐像	印相は定印。完存？	フ84 №15 阿	椹木町通、『年報Ⅰ』
A2	阿弥陀如来 坐像	耳表現。光背は壷形か? 膝から下埋没	フ210 X-7 阿	丸太町通上、『年報Ⅲ』
A3	阿弥陀如来 坐像	定印？ 完存？	フ187 X-6 阿	椹木町通、『年報Ⅲ』
A4	阿弥陀如来 坐像	膝から下埋没	フ26 D18～19E **薬師如来**	中立売通～上長者町通間、『年報Ⅱ』
A5	阿弥陀如来 坐像	膝から下埋没	フ102 №24 阿	椹木町通、『年報Ⅰ』
A6	阿弥陀如来 坐像	光背の頂部平坦。膝から下埋没	フ77 D15E 阿	中立売通～上長者町通間、『年報Ⅱ』
A7	阿弥陀如来 坐像	定印？	フ76 №24 阿	椹木町通、『年報Ⅰ』
A8	阿弥陀如来 坐像	定印？ 完存？	フ105 №52 阿	出水通、『年報Ⅱ』
A9	阿弥陀如来 坐像	光背の頂部平坦。完存？	フ55 №53 阿	椹木町通、『年報Ⅱ』
A10	阿弥陀如来 坐像	膝から下埋没	フ37 D19～20E 阿	中立売通～上長者町通間、『年報Ⅱ』
A11	阿弥陀如来 坐像	定印。完存？	フ168 №52 阿	出水通、『年報Ⅱ』
A12	阿弥陀如来 坐像	定印？ 完存？	フ31 D18～19E 阿	中立売通～上長者町通間、『年報Ⅱ』
A13	阿弥陀如来 坐像	定印？ 完存	フ169 ― 阿	？
A14	阿弥陀如来 坐像	完存？	フ89 №24 阿	椹木町通、『年報Ⅰ』
A15	阿弥陀如来 坐像	完存？	フ61 D18～19E 阿	中立売通～上長者町通間、『年報Ⅱ』
A16	阿弥陀如来 坐像	完存？	フ24 D17EⅡ～Ⅲ 阿	中立売通～上長者町通間、『年報Ⅱ』
A17	阿弥陀如来 坐像	定印？ 完存	フ114 №53 阿	椹木町通、『年報Ⅱ』
A18	阿弥陀如来 坐像	台座観察可。完存	フ141 №53 阿	椹木町通、『年報Ⅱ』
A19	阿弥陀如来 坐像	完存	フ134 X-2 阿	出水通、『年報Ⅱ』
A20	阿弥陀如来 坐像	完存	フ132 X-1 阿	下立売通、『年報Ⅱ』
A21	阿弥陀如来 坐像	完存	フ180 X-6 阿	椹木町通、『年報Ⅲ』
A22	阿弥陀如来 坐像	完存	フ156 X-2 阿	出水通、『年報Ⅱ』
A23	阿弥陀如来 坐像	定印。完存	フ36 №15 阿	椹木町通、『年報Ⅰ』
A24	阿弥陀如来 坐像	完存	フ163 X-6 阿	椹木町通、『年報Ⅲ』
A25	阿弥陀如来 坐像	台座観察可。完存	フ108 №53 阿	椹木町通、『年報Ⅱ』
A26	**単独仏 坐像(光彫)**	頭部は平坦。膝から下埋没	フ206 X-7 阿	丸太町通上、『年報Ⅲ』
A27	阿弥陀如来 坐像	膝から下埋没	フ11 №44 w2 阿	出水通、『年報Ⅱ』
A28	阿弥陀如来 坐像	膝から下埋没	フ157 X-2 阿	出水通、『年報Ⅱ』
A29	阿弥陀如来 坐像	定印。首から上欠損	フ48 №52 阿？ 首欠	出水通、『年報Ⅱ』
A30	阿弥陀如来 坐像	頭部から上欠損。顔面欠損	フ101 D18～19E 阿？	中立売通～上長者町通間、『年報Ⅱ』
A31	阿弥陀如来 坐像	定印。頭部から上欠損	フ152 №53 阿	椹木町通、『年報Ⅱ』
A32	阿弥陀如来 坐像	定印。頭部から上欠損。顔面欠損	フ72 №53 阿	椹木町通、『年報Ⅱ』
A33	阿弥陀如来 坐像	定印。衲衣に襞、頭部から上欠損	フ133 X-2 阿？	出水通、『年報Ⅱ』
A34	阿弥陀如来 坐像	体部上半は欠損	フ137 №52 ―	出水通、『年報Ⅱ』
A35	**地蔵菩薩？ 坐像**	頭部付近のみ残存。大型	フ192 D42EⅡ ―	椹木町通～丸太町通間、『年報Ⅲ』
A36	**地蔵菩薩？ 坐像**	頭部付近のみ残存。大型。顔面欠損	フ193 D42EⅡ ―	椹木町通～丸太町通間、『年報Ⅲ』
A37		礎石。中央に円形柱座	ケ16 X-6 礎石	椹木町通、『年報Ⅲ』
A38	阿弥陀如来 坐像	定印。耳あり。光背頂部平坦。完存？	ヒ3 X-1 **供養塔** E12	下立売通、『年報Ⅱ』
A39	阿弥陀如来 坐像	膝から下埋没	ヒ20 X-7 **供養塔** 応永10年	丸太町通上、『年報Ⅲ』
A40	阿弥陀如来 坐像	膝から下埋没	ヒ26 D40 **供養塔**	椹木町通～丸太町通間、『年報Ⅲ』
A41	阿弥陀如来 坐像	定印。完存？	当初は不設置	
A42	阿弥陀如来 坐像	定印。完存	当初は不設置	
A43	**地蔵菩薩 立像(光彫)**	右肩に錫杖をもつ。完存？	当初は不設置	
A44	阿弥陀如来 坐像	定印。衲衣の襞明瞭。完存	当初は不設置	
A45	阿弥陀如来? 坐像	頭部付近のみ残存。顔面欠損	当初は不設置	
A46	**地蔵菩薩 立像**	頭部付近のみ残存	当初は不設置	
A47	**薬師如来 坐像**	来迎印。左手に薬壷？ 膝から下埋没	当初は不設置	
A48	阿弥陀如来 坐像	完存？	当初は不設置	
A49	**二尊仏 立像(方彫)**	地蔵菩薩。錫杖をもつ。屋根は欠損	当初は不設置	
A50	**二尊仏 立像(方彫)**	右は地蔵菩薩、屋根は平頭。完存	当初は不設置	
A51	**三尊仏 坐像(方彫)**	屋根は尖頭。完存	当初は不設置	
A52	**二尊仏 坐像(方彫)**	屋根は尖頭。前面は3段。完存	当初は不設置	
A53	**地蔵菩薩 立像(光彫)**	完存	当初は不設置	
A54	**釈迦如来 坐像(円光)**	来迎印で指開く。衲衣の襞。顔面欠損	当初は不設置	
A55	阿弥陀如来 坐像(**壷光**)	来迎印。梵字と「清明 ☆」線刻	当初は不設置	
A56	阿弥陀如来 坐像	定印。墨書。ガラス室で展示。完存。	当初は不設置	
B1	阿弥陀如来 坐像	定印？ 完存？	フ111 X-1 阿	下立売通、『年報Ⅱ』
B2	阿弥陀如来 坐像	完存？	フ30 D17EⅡ～Ⅲ 阿	中立売通～上長者町通間、『年報Ⅱ』
B3	阿弥陀如来 坐像	完存	フ211 X-7 阿	丸太町通上、『年報Ⅲ』
B4	阿弥陀如来 坐像	完存？	フ25 D18～19E 阿	中立売通～上長者町通間、『年報Ⅱ』
B5	阿弥陀如来 坐像	完存。頭部が黒い	フ112 ― 阿	？
B6	阿弥陀如来 坐像	完存。頭部が黒い	フ60 D18～19E 阿	中立売通～上長者町通間、『年報Ⅱ』
B7	**三尊仏 坐像**	中央大の三尊型式。屋根なし。完存	フ23 D17EⅡ～Ⅲ **多尊仏**	中立売通～上長者町通間、『年報Ⅱ』
B8	阿弥陀如来 坐像	完存	フ120 D15E 阿	中立売通～上長者町通間、『年報Ⅱ』
B9	阿弥陀如来 坐像	膝から下埋没	フ53 D19EⅠ 阿？	中立売通～上長者町通間、『年報Ⅱ』
B10	阿弥陀如来 坐像	定印	フ42 D18～19E 阿	中立売通～上長者町通間、『年報Ⅱ』
B11	阿弥陀如来 坐像	完存	フ109 X-2 阿	出水通、『年報Ⅱ』
B12	阿弥陀如来 坐像	完存	フ12 №44 s13 阿	出水通、『年報Ⅱ』
B13	阿弥陀如来 坐像	完存？	フ86 №15 阿	椹木町通、『年報Ⅰ』
B14	阿弥陀如来 坐像	頭部先端から上欠損。	フ50 №13 阿	中立売下ル、『年報Ⅰ』
B15	**二尊仏 坐像(方彫)**	屋根は尖頭。阿弥陀如来？ 完存	フ99 D17EⅡ～Ⅲ **二尊仏**	中立売通～上長者町通間、『年報Ⅱ』
B16	阿弥陀如来 坐像	膝から下埋没	フ68 D20EⅡ 阿	中立売通～上長者町通間、『年報Ⅱ』
B17	**単独仏 坐像(阿弥陀.光彫)**	完存	フ140 X-2 阿	出水通、『年報Ⅱ』
B18	阿弥陀如来 坐像	完存？	フ67 D20EⅡ 阿	中立売通～上長者町通間、『年報Ⅱ』
B19	阿弥陀如来 坐像	光背は幅狭い。膝から下埋没	フ127 X-1 阿	下立売通、『年報Ⅱ』
B20	**地蔵菩薩 立像(方彫)**	屋根は尖頭。完存？	フ116 №52 ― **板碑型** 3-8	出水通、『年報Ⅱ』